平成２６年度お茶の水女子大学事務職員海外研修報告書

【目次】

１．概要
２．研修報告
３．研修の成果
４．次年度以降への申し送り
５．日誌及び所感

１．概要

- 目的：事務職員のグローバル化を促進するため、海外の大学等を視察するとともに、現地での語学研修を行う。
- 派遣先：サンフランシスコ（アメリカ）
- 派遣期間：平成２７年３月１日～３月１１日（１１日間）
- 派遣人数：２名

  留奥真理子　国際課　係員

  松田梨沙　　学生・キャリア支援課　係員

２．研修報告

①　語学学習（3/2～5）

語学学校 intrax にて 1 週間クラスに参加。

→午前中は 8：30 から授業。ディスカッションが中心のため、ひたすら英語を話すスピーキングの訓練をした。同時に、参加学生が多国籍であるため、それぞれの国の訛りのある英語を聞き取るリスニングの訓練にもなった。

午後は出された課題の作業。課題の作業の中で、リーディングおよびライティング、単語力の強化を図ることが出来た。また、午後は語学学校主催の各種イベントが開催されており、1 日だけキャンパスツアーに参加した。

②　高等教育機関視察（3/5.9）

■カリフォルニア大学バークレー校(3/5)：語学学校主催のキャンパスツアーに参加。

■サンノゼ州立大学(3/9)：Associate Professor の Y さん（お茶大 OG）との懇談及び日本語クラス見学、横浜国立大学の交換留学プログラムでサンノゼ州立大学に留学中のトビタテ 1 期生によるキャンパスツアー。

■スタンフォード大学(3/9)：前スタンフォード大学教授 N さん（お茶大 OG）によるキャンパスツアー。

→各大学ともに日本の大学にはない規模感で、アメリカの大学を肌で感じることが出

来た。サンノゼ州立大学では、教員と留学中の日本人学生に話を伺うことで、日本の大学の良い点や改善点を学ぶことが出来た。

③　研究者交流会への参加（3/6）
第２８回 JSPS 海外派遣者懇談会・第９回在米大学教員交流会に補佐（写真撮影及び照明管理）として参加。
→大学教員及びポスドクが海外でどのような研究をしているのか、また若手に関しては、その後のキャリアについてどのように考えているのかを知ることが出来た。

④　日本人留学生との懇談（3/9）
サンノゼ州立大学に留学中の学生４名（横浜国立大学大学院生１名、早稲田大学学部生２名、九州大学学部生１名）と懇談。
→サンノゼ州立大学での学業、周辺の居住環境、大学に支援してほしいことなどについて伺う。学生の立場から日本の大学の改善点を聞くことが出来た。

⑤　お茶大 OG との懇親(3/1.9)
お茶の水女子大学同窓会サンフランシスコ支部に属している方々と懇談を行った。
→次年度以降の職員海外研修、学生派遣、協定締結のための協力を取り付けることが出来た。

３．【研修の成果】
■英語を話すことへの自信
→今回語学学校では３日間しか授業を受けていないため、目に見えた能力向上などの成果はないが、必ずしも完璧な英語を話さなくても意思疎通を取ることができることがわかり自信に繋がった。一生懸命話してみることが大切である。英語圏に１１日間滞在し英語に慣れ、リスニング力は向上したように思う。また、日本語が通じず、アテンドしてくれる人もおらず、嫌でも英語でコミュニケーションをとらなければならない環境に身を置きサバイブしたことも自信に繋がった。
■UCBerkeley Extension とのつながりを作ることができた。
→松田の知り合いが UCB にてインターン経験があり、UCB Extension の COO（最高執行責任者）との間を取り持ってくれたために、協定締結・学生の短期研修プログラム作成の話し合いを始めることができた。現在、グローバル教育センター渡辺講師（北米協定担当）に引き継ぎ、話し合いが行われている。
■サンノゼ州立大学との協定の可能性を作ることが出来た。
→サンノゼ州立大学に勤務されている Y さんや N さん（お茶大 OG）と話し合いを行う中で、協定締結に向けての協力を要請することが出来た。実際に、N さんは本学に来訪さ

れ、詳細な話し合いを行うことが出来た。
■お茶大同窓会サンフランシスコ支部の方々との繋がり
→今回の研修は、お茶大同窓会サンフランシスコ支部の N さんのご協力がなければ成り立たなかった。土地勘も全くないため、現地での協力者がいると大変頼もしい。次年度以降もサンフランシスコにて研修を行う場合、ご協力いただけるとのこと。また協定を進める際にも、このような人と人との繋がりは貴重である。

４．【次年度以降への申し送り】
・研修の意義や目的をはっきりさせ、理解したうえで研修に臨む。
→大学の研修だから、と受身になってしまいがちだが、研修でお世話になる方々は、忙しい時間を縫って時間を取り、対応してくれている。自分が研修で身に付けたいこと、学びたいことは何かを具体的にして、きちんと相手に説明できるようにする。そうすると、相手もそれに対応するような情報を提供してくれるため、研修がより密度の濃いものとなる。
・大学の代表としての意識を持つ。
→まだ 1 年目、2 年目だとしても、相手から見れば「お茶の水女子大学の職員」であることに代わりはない。学生数や本学の特徴、強みなど、基本的な情報は必ず頭に入れていくこと。
・学外の方と連絡を取る可能性がある場合、モバイル wifi は必須。
→緊急で連絡したいことがある可能性があるため、常にメール・電話は使える状態にしておいたほうがよい。ホテルに wifi があったとしても、ホテルでチェックするのでは遅く、迷惑をかける可能性がある。

５．日誌及び所感

【平成２７年３月１日（日）】

研修内容：－

出発が３時間遅れ、１５時過ぎにロビーへ到着、迎えに来てくれていた N さんと合流する。車中で自己紹介、サンノゼ州立大学との協定についての情報をいただく。宿泊ホテル（Hilton San Francisco Union Square）に送っていただいた。



成田空港で待機



Hilton San Francisco Union Square

【平成２７年３月２日（月）】
研修内容：オリエンテーション＋プレイスメントテスト@Intrax San Francisco
（8:30~14:00）
　オリエンテーション（intrax のルールやビザ関連の連絡事項など）とキャンパスツアーを受ける。PC にてプレイスメントテスト（reading, listening）を受けた後にスピーキングテストを個別に受ける。最後に契約書にサインをして終了。プレイスメントテストの結果により、明日以降のクラス分けが決まる。
→学生の年齢層は１０代後半～２０代後半。日本人・韓国人・中国人４割、その他アジア系２割、アラブ系２割、その他（西洋系）２割の比較的バランスの取れた人種分布。

【平成２７年３月３日（火）】
研修内容：英語研修@Intrax San Francisco（8:15～12:35）
留奥：Business English C1 T2
　クラス分けの結果を教えてもらい、それぞれの教室へ。
　Business English course　は比較的年齢層が高めで、おそらく２０代前半～半ばの年齢層。サウジアラビア、チベット、韓国、ギリシャ、アフガニスタン、日本などの参加者。ビジネスで使う英語を学ぶというより、ビジネスについて英語で学ぶという形式。今日は

テキストに沿いながら、どのように自分のキャリアを構築していくかと学んだ。いろいろな国の出身学生がいるので、様々な視点、異なる価値観に触れられることが単純に楽しい。クラスには、必死の思いで英語を学ぶ機会を手に入れた人もいるため、自分の英語学習へのモチベーションが強く刺激された。

松田：General English　Level8

General English　Level8 は、10 段階中の 8 のため比較的レベルが高く、活発なディスカッションが行われた。２０代前半の学生が中心。皆、文法に少し間違いがあったとしても臆することなく発言しており、日本人は完璧に話そうとすることを気にしすぎていて shy であると指摘される。

午後は留奥・松田ともに明日までの課題の作業。

【平成２７年３月４日（水)】
留奥：体調不良でダウン。
松田：昨日出された課題について答え合わせをし、なぜそう答えたのか二人一組で話し合い。後半は work をテーマにディスカッション。午後は明日までの課題作業。

【平成２７年３月５日（木)】
8:30~12:35
留奥：テキストを中心としたプラクティス。二人一組になってディスカッションを行う。
松田：課題の答え合わせおよび話し合い。work をテーマにネイティブの student advisor とともにディスカッション。
13:00~
卒業式：ホールで卒業証明書を受け取り、記念撮影をする。１週間しかなかったけれど、きちんと参加させてくれて、周りの学生も盛り上げてくれてよい記念になった。



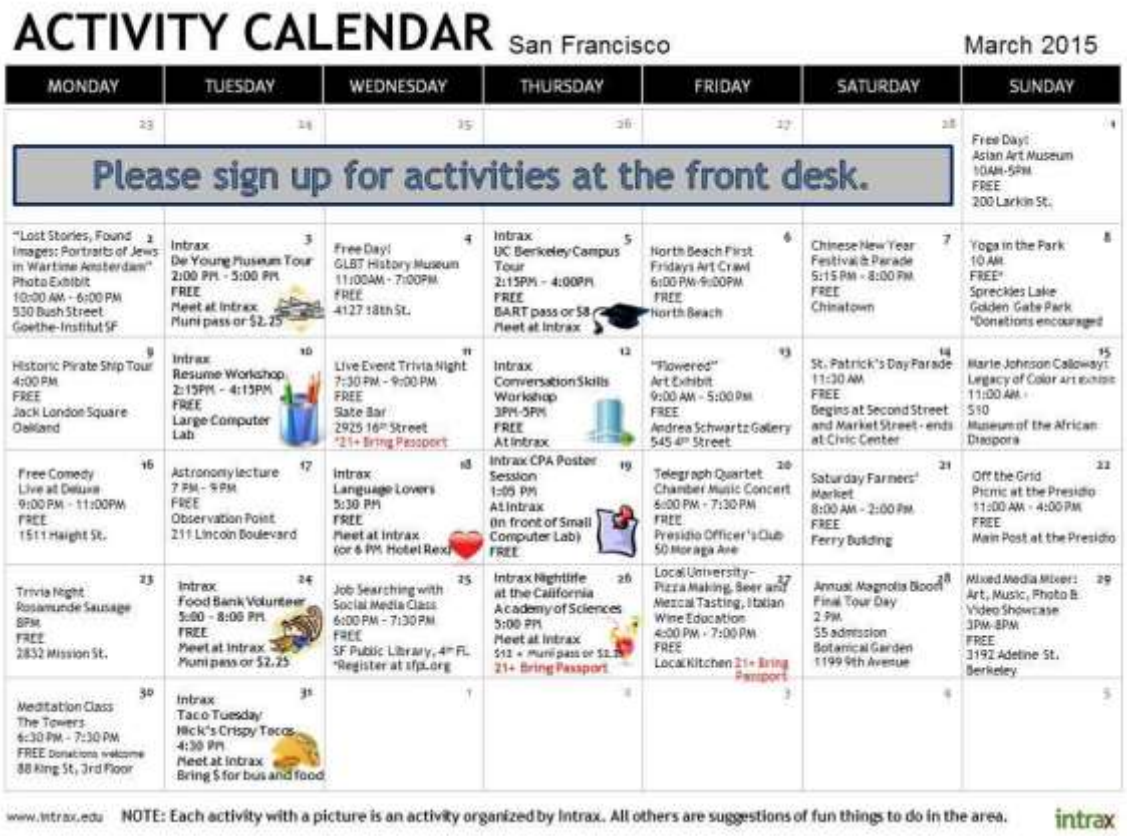
卒業証書授与



３日ですが卒業証書もらえました。

14:15~17:30

Intrax のキャンパスツアーで UCBerkeley へ行く。Intrax は午前中に授業があり、午後は何かしらのイベントが開催されている。



３月のイベントカレンダー。

この日は UCB へのキャンパスツアーで、UCB 卒業の intrax 職員がアテンドをし、電車の乗り方からキャンパスガイドまですべて面倒を見てくれる。有名な Sather Tower, Library などを紹介してくれ、ご飯食べる場所を教えてくれて、解散。
→私たちが参加したのはこのプログラムだけだったが、もう少し長くいられるのであれば、他にもいろいろ参加すると、日本人以外の友人ができ、英語能力を鍛える機会になると思う。

【平成２７年３月６日（金)】
第２８回 JSPS 海外派遣者懇談会・第９回在米大学教員交流会　合同開催
@カリフォルニア大学バークレー校アラムナイハウス　Toll Room
12:50~17:30

日本学術振興会（JSPS）サンフランシスコ研究連絡センターが主催する研究者交流会をお手伝いさせていただいた。留奥、松田＝カメラマン及び照明管理。
現在アメリカ（主にサンフランシスコ近辺）で研究活動を行っている研究者が４分間自分の研究内容を発表した後、１分間の質疑応答を行う。その後、JSPS の紹介、UAJ（University）の紹介、講演があり、記念撮影をした。グループディスカッションののち、懇親会がある予定だが、私たちは帰り道が不安なため、日が落ちる前に早めに失礼した。
→海外で研究している人々の生の意見を聞ける良い機会だと感じた。どのような研究内容の人が、なぜアメリカで研究をしているのかを発表しているため、日本の大学に何が欠けているのかを少し理解することができた。自分たちの仕事が世界をより良くするための研究に繋がっていることを感じることができた。懇親会まで参加できれば、よりざっくばらんな話を聞くことができたと思うので、可能であれば最後まで参加した方がよいと思う。また、事務局の人数が少ないため、少しでも手伝ってもらえると非常に助かるといってもらえたため、その面でも最後までいられれば良かったのに…と感じた。



第２８回 JSPS 海外派遣者懇談会・第９回在米大学教員交流会の様子

【平成２７年３月９日（月）】

サンノゼ州立大学視察（お茶大 OG の Y さんとの懇談、協定についての相談、日本語学習者の動向、日本語クラス見学)、サンノゼ州立大学留学中の学生との懇談、スタンフォード大学視察
9:30~19:00

早朝、公共交通機関を使用してサンフランシスコからサンノゼ州立大学へ移動。
9：30 から Y さんの研究室で、Y さんのバックグラウンド（日本語教育について)、お茶大との協定についてお話を伺う。Y さんはお茶大で国文を専攻していたが、副専攻で日本語教育を行い、国研で日本語教師としての実践を行った。修士でお茶大の大学院に戻り、国際交流基金に 10 年勤めたあと、子供が 5 歳と 7 歳のタイミングで渡米。UC バークレーに職を得て、1 年後にサンノゼ州立大学に移動。今に至る。
その後１０：３０より日本語クラス（日本語初歩レベル）を見学。
12 時に H さん（横浜国立大学大学院生、トビタテ 1 期生）が迎えに来てくれて、ご挨拶をして Y さんとはお別れ。キャンパスツアーで H さんのドミトリーを見せていただき、図書館や講義棟などを見学。早稲田大学の女子学生 2 名（社会科学部、商学部）と合流し、お昼ご飯を伝統的なお店で食べる。九州大学の女子学生とも合流。学生さんともいろいろ話すことができてよかった。なにより、みんなとても楽しそうに暮らしていることが分かった。そして、学生が援助してほしいと思っているのは「保険」とのこと。日本の大学で強制加入させられたが、アメリカの大学でも加入を強制されて、結局 2 重で支払わなければならないという非合理的なことが発生してしまっているという。
その後、学生とは別れ、N さんの車でスタンフォード大学へ。規模が違いすぎて驚く。大学ではなく一つの町である。学内を何台もシャトルバスが走っている。いろいろ教えていただいた後に、正面玄関で下していただき、お別れ。教会、ブックストアへ行き、キャンパスをぶらぶらする。きれいすぎて大学とは思えない。
カルトレインでなぜかサンフランシスコへ帰還。



サンノゼ州立大学の日本語クラス授業風景（立っている先生が Y さん）



サンノゼ州立大学キャンパス



サンノゼ州立大学の学生寮



スタンフォード大学マップ



キャンパスの中央にあるメモリアルチャーチへ向かう道



スタンフォード大学の生協のようなストア（広い）

【平成２７年３月１０日（火）】
帰国。